

カワアイサ *Mergus merganser* Linnaeus

【選定理由】

2010年頃まで、県内の分布は尾張地域の木曾川に集中しており、特に1980年代後半には100羽を超える記録もあるが、県内の他の地域では1年に1羽が見られるかどうかといった珍鳥でもあった。その後尾張地域での生息数が減少し、それまで飛来が希であった三河地域の矢作川水系や豊川水系、天竜川水系、および三河湾の沿岸部などでも観察されるようになってはいるが、県内全域の総個体数にはほとんど増加傾向がみられない。

【形態】

全長58～72cm、翼開長86～102cm。雄は、頭部が緑光沢のある黒色で、後頭にふくらみがあり、嘴は赤色で細長く先端がかぎ状にまがる。上頸から腹にかけては白色でサーモンピンク色を帯びる。背は黒色で、肩羽、雨覆、次列風切は白色で初列風切は暗灰色。雌は、頭部が茶色で後頭に冠羽があり、喉から胸にかけて白色で上面は灰色。



静岡県, 2015年1月5日, 浅井利明 撮影

【分布の概要】

【県内の分布】

現在は冬期に県内の河川や湖沼に生息し、希に三河湾の沿岸部で記録されることもある。

【国内の分布】

北海道に周年生息し繁殖するほか、本州、四国、九州では冬期に河川や湖沼に生息する。

【世界の分布】

ユーラシア大陸北部及び北アメリカ大陸の亜寒帯と温帯の一部で繁殖し、ヨーロッパ、中近東、インド東部、ミャンマー、中国南部、北アメリカ南部で越冬する。

【生息地の環境／生態的特性】

比較的広い瀬や淵のある河川やダム、広い池沼を好んで越冬するようであるが、最近では河口や海岸などで1～数羽の記録もある。巧みに潜水して魚類を捕食するが、比較的浅い水辺で顔を水につけ、速く泳ぎながら魚を追うこともある。県内での繁殖はないと思われるが、繁殖期およびその直後と思われる季節に、河川の上流や中流域で複数の個体が確認されることも少なくない。

【現在の生息状況／減少の要因】

以前は木曾川に集中していたが、近年は県内全域の河川やダム、大きめの溜池などに冬鳥として生息するようになり、少数であるが河口や海岸、島などでも観察されるようになっている。新しく分布した地域ではほぼ毎年10羽程度以上が飛来しているのは豊田市、岡崎市、豊根村、豊川市の4箇所と思われるが、ダムの2箇所は同一シーズンでも個体数が安定しない。平野部の河川2箇所では、近年毎年比較的安定した飛来が確認されている。ただし県内の生息総数は、木曾川周辺で最多であった頃と比較して多くなってはいないようである。尾張の平野部から県内全域の山地や海まで、広く分散した要因は不明である。

【保全上の留意点】

河川や池沼など水辺環境を保全し、安定して越冬できる環境の整備に努める必要がある。

【特記事項】

新しく越冬が始まった岡崎市と豊川市の河川は瀬と淵のある河川である。扶桑町から岐阜県各務原市あたりの木曾川に似た環境ではあっても、川幅が広く中洲も存在する木曾川に比べると川幅はかなり狭いので、警戒心の強い本種にとって安定した生息環境とは言い難い。

【関連文献】

黒田長久, 1984. 黒田長久編, 決定版 生物大図鑑 鳥類, p.82. 世界文化社, 東京.

(高橋伸夫)